
センターだより

平成22年1月15日

NO. 37

東濃西部少年センター

多治見市豊岡町1-55

TEL. FAX 23-3455

謹賀新年



東濃西部少年センター

所長 石原 憲

指導主任 石田 欽一

事務担当 宮内 峰子

新年あけましておめでとうございます。

各地区の少年指導員の皆様、関係諸機関の皆様におかれましては、清々しい新年をお迎えることとお慶び申し上げます。

旧年中は地域の青少年・児童生徒の健全育成、非行防止、安全確保に格別のご指導、ご協力を賜りありがとうございました。

さて、21世紀を担う青少年の健全育成は、地域社会の課題であり私たち大人の責任であります。しかしながら、情報化社会や夜型社会の進展などにより、彼らをとりまく環境は極めて厳しい状況にあります。

平成21年1月から9月までの多治見警察署管内における非行少年は平成20年の同期と比較し151人から142人に、不良行為少年は2,131人から1,710人と減少はしていますが、県下の各地区共にまだ高い数値を示しています。学職別で見ても中学生と高校生が高い比率を占めています。

こうした状況下で当センターに課せられた役割はますます大きいと言わざるを得ません。

平成22年も公的関係機関や各種市民団体との連携を深め指導活動、相談活動、啓発活動等に全力を注ぐ覚悟であります。

少年指導員の皆様には、大変ご苦勞をお掛けしますが、本年も一層のご尽力とご協力をお願い申し上げます。

平成 21 年度の活動報告



5月16日(土) 土岐市文化プラザサンホール
委嘱式

写真は、土岐市教育長より委嘱状を授与される谷
敏 多治見地区地区長

基調講演は、魂のヴォーカリスト 杉山裕太郎氏の
「親子の絆」～その一言で変わった、俺の人生～
委嘱式後に各地区ごとに分かれて全体会議を開催。

6月13日(土) セラトピア土岐
新任指導員研修会

写真は、多治見警察署少年補導職員 高橋 瑠美さん
「効果的な声かけについて」の講演
ビデオ視聴による「指導員の心得」とプロジェクター
による少年センターの概要説明。



7月9日(水) 土岐市駅前

青少年を非行から守る全国強調月間
中学生が「一日保護司」として参加

土岐地区少年指導員とセンター職員が応援参加
写真は土岐市駅構内での中学生による啓発活動

多治見地区の啓発活動は、7月5日(日)に
瑞浪地区の啓発活動は、7月8日(火)に行われま
した。

7月25日～8月30日

夏休み期間中の夜間特別巡回指導

	多治見地区	瑞浪地区	土岐地区	合計
指導回数	15回	17回	12回	44回
参加指導員数	86人	30人	40人	156人
指導件数	0人	2人	2人	4人

10月3日(土) セラトピア土岐
3地区合同研修会

写真は、多治見市教育長 村瀬 登志夫氏

「子どもの心と地域の教育力」の講演

講演後に13班に分かれて・若者や子どもたちへ
の眼の配り方共通理解と共通認識・についてグル
ープ意見交換を行いました。





11月5日(木)土岐地区、11月10日(水)
瑞浪地区、11月21日(土)多治見地区
「青少年健全育成強調月間」駅前啓発活動
写真は、新装なったJR多治見駅前での啓発
各地区の啓発活動において、高校生のMSリーダ
ーズメンバーの方が多数参加してくださいました。

一筆啓上

小さな心がけできれいな街に

多治見地区少年指導部
少年指導員 吉田 富美子

人混みの遊園地を散策していた折、10歳くらいの女の子が駆けながら近くを通りぬげざま、手に持った一束の折り紙を落としてしまい、周りに散乱してしまいました。女の子はすかさずそれを一枚一枚拾おうと拾いはじめた時、先を行き振り返ったお母さんが、「拾わなくていい!」と叫び静止しました。女の子はお母さんの言葉で拾うのを止め、「行くよ!」との一声で一瞬躊躇したもののそのままにして行ってしまいました。

私はその一部始終を見て、躰の良い機会なのに…と、とても残念に思ったものです。汚れているかも知れない、たいては高価でないかも知れない折り紙ですが、公共の場で散らかしたまま平然と立ち去るのではなく、残念だったねと声を掛け、汚れて使い物にならなかつたらゴミ箱まで持ち帰って欲しかった。ね、お母さん。本音を言うと「お母さん、散らかしたままでは良くないのでは?」とおせっかいに忠告したい私でしたがそれは言えなかった…。

また、どこにでもありそうな話ですが、私の住んでいる地域のゴミ収集場に、ここ何年もいつもいつも袋にまとめるでもなく、コンビニ弁当の食べ残し容器やさまざまな飲料缶、パンの袋やレシートなど小さなレジ袋からはみ出したまま毎週捨てて行く人が居ます。

時には、電気料金のメーター表、他人の物か?破れかけた写真入の履歴書も、またあるときは、営業用の名前の入ったノートも入っている事もあって。私は会社の名前も電話番号も書いてあったので、勇気を出してその名前の人に「地域のみんが困っていること、その度に心優しい地域の誰かが分別して自分の袋に入れて片付けているので、迷惑にならないように処理して欲しい。」と電話で伝えました。その人は取り戻しに来たようですが、その時はすでに誰かが片付けた後できれいになっていましたので、また続けて捨てて行く人が居ます。「無断ゴミ捨て禁止」の看板も目に入っていないようです。

家の前を子どもさんがお菓子を食べながらおしゃべりをして通った時、「おいしそうだね、袋はお家に持って帰ってね。おばさんいつも道路のゴミ拾って来るよ。」と話す時、「ふうん、うんこも?」との言葉が返ってきて一本取られました。

小さな迷惑行為を幼い時からしっかりと判断できるように躰られていれば、もっときれいな街になって、美しい環境で健全な心の子育てが出来るようにといつも思っているところです。

一筆啓上

指導員としての5年間を振り返って

瑞浪地区少年指導部
少年指導員 工藤 俊明

私が少年指導員になったきっかけは、長男から「やってみないか」と言われた事が始まりでした。36年間勤めた会社を早期退職し、毎日家に居るときのことでした。当面何をするという当ても無かったことから、又息子が頼むというから気楽に考えて「ああいよいよ」と言ってしまいました。後でじっくりと考えてみると、今までに年少少女、小中学生、高校生等と話しをする機会などあったらどうか。自分の息子、娘でさえ今では成人して社会人になっているが、その年代のときは単身赴任、長距離通勤、残業続きで自分の子供でさえもゆっくり話をする事などほとんど皆無に近かったと思います。世の中の情勢も少年犯罪の凶悪化、校内暴力、いじめ、自殺、家庭内暴力、禁止薬物の使用等々大人顔負けの犯罪が行われ、益々エスカレートしているように思われます。

ほとんど年少少女と関わり無く、又この様な事には全く傍観者的に過ごして来た者が本当に果たして「少年指導員」などという肩書きを貰っても良いものだろうか。せめて年少少女に関わりのある職業にいる人、年少少女、児童の心理、成長過程を学んだ人のほうが適任ではないだろうかとも考えました。しかし、返事をした以上引き受けなければなりません。

新聞雑誌、テレビでは毎日のように年少少女、児童に関するありとあらゆる情報が学識経験者や研究者、心理学者、宗教家、芸術家、以前自分が問題児だった人等によって経験談、対処法としてもたらされています。これらの記事、エッセイなどを読むといつの時代でも青少年の問題は世の中全体の問題であり、これが解決法だという手段は存在しないと思われます。

そんな事を思いながら委嘱式、新任研修会に参加しました。最初はどんな事をするのか何をするのか皆目見当もつきません。委嘱式が終わり、次に6月の新任研修会です。配布されたマニュアルには様々なケース、対処法が書かれていました。実際、果たしてこの様なことが素人の自分出来るだろうか、大いに不安が頭をよぎりました。さて次にロールプレイングに入りました。事前に、相手を興奮させないよう、反抗的にならないよう、言葉は優しく威圧的にならないようにとの説明でしたが、実際に目の前で問題のある行動を取っている年少少女に対して「どうしたの」「話してごらん」などと優しい言葉で話し掛けることが出来るだろうか。自分の子供だったらたぶん「コラッ」と怒鳴りつけてしまうだろうな、こんなことできそうも無いな、などとぼんやり考えていました。しかし、ふと我に返って思うと自分は我が子以外の年少少女達と話しをしたことがあるだろうか、全く無い、話しかけたことも、話しかけられた事も無い、そんなこと考えてもみなかった。その様な状態だったから改めてこちらから年少少女達とコミュニケーションをとる努力など面倒なことだなどと思っていました。ロールプレイングが終わりました、やっぱり使い慣れていない言葉を使ったため大変疲れてしまいました。しかし、この様な機会が無ければ年少少女達に声を掛けるということは一生有り得ないな、いい勉強だなどとも思いました。

問題を起こしてしまった年少少女達は、幼い頃は誰も純粋な瞳を持ち明るく笑っていたと思

います。しかしある時点から変化を起こしてしまう、その変化の原因の大部分が大人の責任であると思います。大人の生き方が子供の考え方、行動に大きな影響を与えていることには間違いがありません、最近の大人の行動は目に余るものがあります。自分も大いに反省しなければと思います。

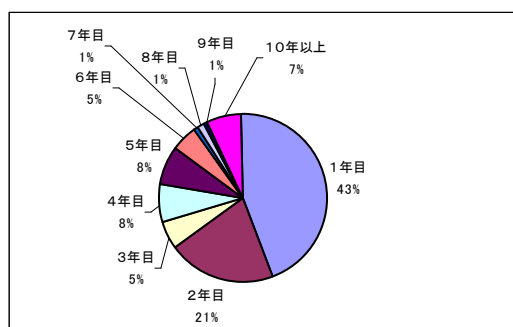
子供達から見れば、優しく声をかけられたということは別に嫌なことではなくて、自分達もちゃんと見守っていてくれるんだと感じると思います。指導員だからと言って上からの目線ではなく、ごく普通に声を掛けるように心がけていますが、諸先輩方が、普段日常どんな時でも、どこの場所でもごく普通に声掛をされる姿を見ると、自分も尚一層努力をしなければと思います。

アンケート調査報告

昨年10月に実施しましたアンケート調査では、少年センターの少年指導員195名の内、154名の方から回答をいただきました。回収率はほぼ80%で、指導員全体の実態や意識を大まかに把握することは出来ました。

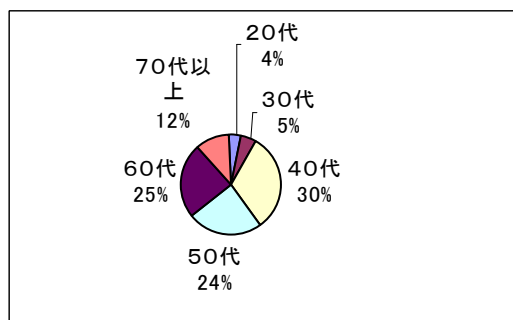
しかし、質問方法の不備や目的の曖昧さもあって、調査が万全であったとは言えません。反省点を今後を活かしたいと思っています。

以下にアンケートの状況を一部紹介します。



Q1 指導員の経験年数

一番多いのは1年目の43%で、次は2年目の21%です。10年以上の方が7%いますが、健康に留意して頑張っています。

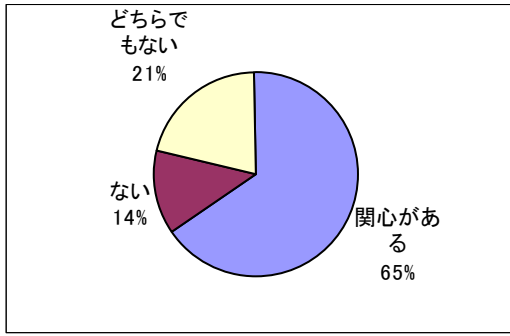


Q2 指導員の方の年齢は、40代が30%で一番多く、60代が25%、50代が24%の順です

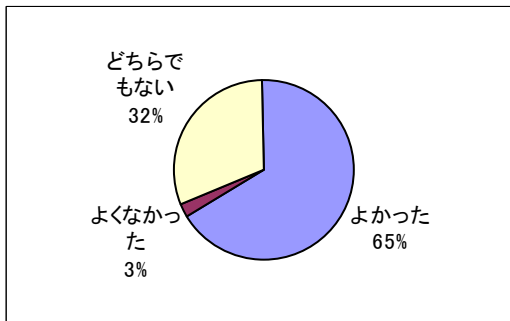
Q3 少年センターについて、61%の方が知っていました。

Q5 少年指導員の91%の方が納得して指導活動にあたっています。

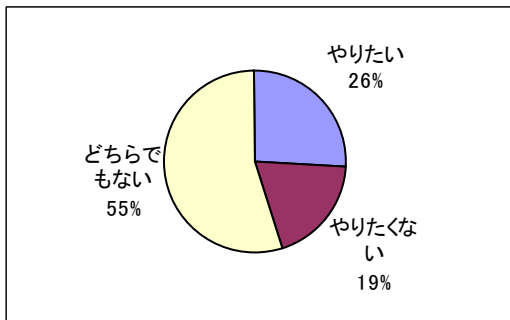
Q6 毎月の巡回指導活動に96%の方が出来るだけ参加するようにしています。



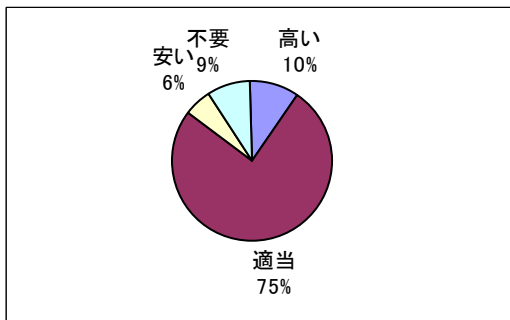
Q 8 センターの活動に関心がある方は65%で、関心の無い方も14%います。



Q 9 少年指導員をやって良かったと考えている方は65%います。



Q 1 0 少年指導員を次年度以降もう1年やりたいと考えている方は、26%いますが、もうやりたくない方が19%、どちらでもない方が55%います。やりたくない方、どちらでもない方の理由は仕事の都合でという回答が47%あります。



Q 1 3 巡回活動1回についての報酬（費用弁償）1,000円が適当であると考えている方が75%と一番多く、不要であると考えている方が9%います。報酬はいくらが適当かの問いに、500円という方が43%、1,500円という方が21%、2~3,000円という方が36%います。

Q 1 5 少年センター以外の青少年に関わっている方は70%います。1つだけに関わっている方が54%で、2つ~4つ関わっている方が44%います。少年指導員の方は、地域や諸団体でもご活躍しています。